

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 1月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践において、離設事故が発生し、その防止の為、玄関は施錠していないが、門扉2カ所施錠している。	門扉の施錠を開放する。	門扉の施錠時間を段階的に長くして、最終的に開放する。	2ヶ月
2	52	居心地のよい共用空間づくりにおいて、利用者が日々集う台所兼リビングに面する所に、車椅子対応のトイレがある。目線や羞恥を回避できる間仕切りや、車椅子の輪の消毒方法などの衛生管理が充分でない。	車椅子の対応トイレを利用者が使用する時に、羞恥を回避できるようにする。また、使用時、使用後の衛生管理を行う。	トイレに間仕切り用のカーテンを設置する。車椅子使用時に、消毒用のマットを使用するか、トイレの床面を定期的に消毒する。	1ヶ月
3	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援において、入所時に、「事前指定書」にて、重度化した場合や終末期のあり方についてご家族の希望を伺っていたが、入所時以降についての話し合いが充分でない。	利用者の状態の変化により、本人・家族の意向を再度聞き、新しい要望を記載する。	「事前指定書」の内容について、本人・ご家族とその内容の再確認を行い、内容を記録する。	3ヶ月
4	49	日常的な外出支援において、外出行事などで、ご家族と協力して戸外へ外出しているが、日常的な外出(散歩等)の回数が少ない。	日常的に利用者が、太陽の光を浴び、外気に触れられるように支援をする。	午後のレクリエーション時など、散歩を主体にして外出や屋外で過ごす時間を多くしていく。	1ヶ月
5	1	理念の共有化と実践において、地域密着型サービスの意義や役割を考え、「ホーム独自の理念」を作り上げ、職員間で話し合いながら具体的なケアについて共有化し、日々実践していくこと。	利用者が、地域で生活を行えるように実践していけるように、職員間で話し合い、実践していく。	2007年4月1日に作成したホーム独自の理念の内容を職員会にて検討し、「地域で安心して生活できる」に関する項目を追加作成し、実践していく。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。